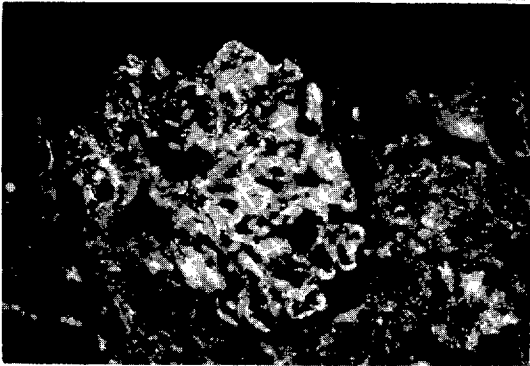


IgG



C<sub>3</sub>

図 2-II 蛍光抗体所見

Conglutinin は一度分離すると、CIq などに比べ安定であり、CIC の測定感度は 4 μg/ml 以上と良く、ELISA との併用により多数検体を一度に処理できる点から、学校検尿有所見者の CIC 測定には適した方法と

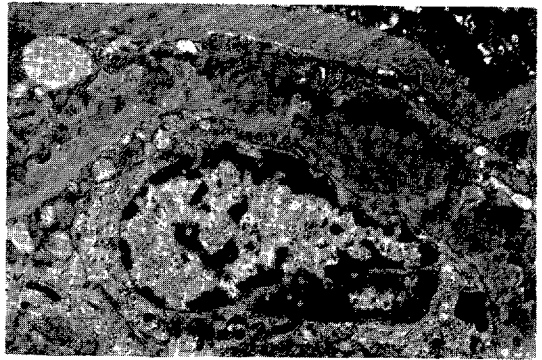


図 2-III 電顕所見——上皮下に Dense Deposits を認める

いえる。

今回の 157 例の検討では 46 例 29.3% が CIC 陽性を示した。陽性例は尿所見の重症な例ほど高率であり、微少血尿例で 22.2%、血尿例 35.2%、血尿蛋白合併例は 57.9% であり、最高値 740 μg/ml を測定した症例は膜性腎症であった。一方、CIC 高度陽性例は尿所見の軽い例にも存在した。これらの例が今後の経過観察でどう変化するかは重要な点である。

CIC の測定法は最近開発され、それぞれの方法についての評価が固まりつつある。学校検尿有所見者の検査に CIC を加える意義は大きく、Conglutinin-ELISA 法による測定はその目的に適った方法といえる。本法で検出される CIC は補体結合性であることから、今後補体非結合性の CIC 検出法も併用することにより一層臨床的意義を明らかにできるものと考えられる。

## 学校検尿患児のスクリーニング療法

|         |       |       |
|---------|-------|-------|
| 新潟大学小児科 | 堀     | 薫     |
|         | 吉 成   | 仁 見   |
|         | 高 野   | 健 一 郎 |
|         | 橋 本   | 謹 也   |
|         | 名 古 屋 | 聰     |
|         | 青 海   | 仁     |

学校検尿第 3 次検診陽性者 113 名に、スクリーニング療法 (CEX 1 週間+ST 合剤 1 週間) を施行しその効果

を検討した。

## 〔対象及び方法〕

昭和55年～57年に新潟大学小児科に来院した学校検尿第3次検診陽性者294名中、スクリーニング療法を施行した113名を対象として、尿所見に従い①血尿群、②蛋白尿群、③血尿+蛋白尿群、④膿尿 with/without 血尿群に分類した。

スクリーニング療法は、第1週目 CEX 及び第2週目 ST 合剤を用いて、それぞれ年令に応じた量を患児に投与した。

## 〔結果〕

1. 男児では血尿群21% (9例/43例)、蛋白尿群0% (0/1)、血尿+蛋白尿群9% (1/11)、膿尿 with/without 血尿群100% (1/1)、計20% (11/56) に有効性が認められた(表1)。

2. 女児では血尿群29% (11/38)、血尿+蛋白尿群11% (1/9)、膿尿 with/without 血尿群100% (10/10)、

表1 スクリーニング治療の成績(男児)

|                    | 有効 | 無効 | 計  | 有効率  |
|--------------------|----|----|----|------|
| 血尿群 6～20/HPF       | 4  | 7  | 11 | 36%  |
| 21～50/HPF          | 0  | 10 | 10 | 0%   |
| 51～100/HPF         | 2  | 6  | 8  | 25%  |
| 100以上/HPF          | 3  | 11 | 14 | 21%  |
| 計                  | 9  | 34 | 43 | 21%  |
| 蛋白尿群               | 0  | 1  | 1  | 0%   |
| 血尿+蛋白尿群            | 1  | 10 | 11 | 9%   |
| 膿尿 with/without 血尿 | 1  | 0  | 1  | 100% |
| 総計                 | 11 | 45 | 56 | 20%  |

(昭55～57, 新潟大学)

表2 スクリーニング治療の成績(女児)

|                    | 有効 | 無効 | 計  | 有効率  |
|--------------------|----|----|----|------|
| 血尿群 6～20/HPF       | 4  | 13 | 17 | 24%  |
| 21～50/HPF          | 3  | 0  | 3  | 100% |
| 51～100/HPF         | 2  | 5  | 7  | 29%  |
| 101以上/HPF          | 2  | 9  | 11 | 18%  |
| 計                  | 11 | 27 | 38 | 29%  |
| 蛋白尿群               | 0  | 0  | 0  |      |
| 血尿+蛋白尿群            | 1  | 8  | 9  | 11%  |
| 膿尿 with/without 血尿 | 10 | 0  | 10 | 100% |
| 総計                 | 22 | 35 | 57 | 39%  |

(昭55～57, 新潟大学)

表3 スクリーニング治療の成績

|                    | 有効 | 無効 | 計   | 有効率  |
|--------------------|----|----|-----|------|
| 血尿群 6～20/HPF       | 8  | 20 | 28  | 29%  |
| 21～50/HPF          | 3  | 10 | 13  | 23%  |
| 51～100/HPF         | 4  | 11 | 15  | 27%  |
| 100以上/HPF          | 5  | 20 | 25  | 20%  |
| 計                  | 20 | 61 | 81  | 25%  |
| 蛋白尿群               | 0  | 1  | 1   | 0%   |
| 血尿+蛋白尿群            | 2  | 18 | 20  | 10%  |
| 膿尿 with/without 血尿 | 11 | 0  | 11  | 100% |
| 総計                 | 33 | 80 | 113 | 29%  |

(昭55～57, 新潟大学)

計39% (22/57) と男児の2倍の有効性が認められた(表2)。

3. 全体として、血尿群25% (20/81)、蛋白尿群0% (0/1)、血尿+蛋白尿群10% (2/20)、膿尿 with/without 血尿群100% (11/11)、総計で29% (33/113) に有効性が認められた(表3)。

## 〔考案〕

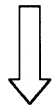
学校検尿陽性児の中には尿路感染症がかなり存在し、それらのものにはスクリーニング療法の効果が期待できる。今回の我々の成績でも膿尿 with/without 血尿群では11例全例に有効性が認められた。

しかし今回の成績で興味深かったのは、血尿群でも25%に有効性が認められ、尿培養陰性例でも有効なものが多かったことである。

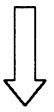
教室の高野らは尿路感染症では尿中分泌型 IgA が高値を示し、学校検尿の血尿 and/or 膿尿群の中には潜在的な尿路感染症が含まれていることを報告した。今回のスクリーニング療法有効例では、膿尿 with/without 血尿群のみならず尿培養陰性血尿群においても、尿中分泌型 IgA が治療前高値を示し治療後尿所見の軽快とともに低値になる傾向がみられた。以上のことから尿培養陰性血尿群の中には潜在的な尿路感染症が含まれ、スクリーニング療法はそれらに対して有効であると考えられた。

## 〔まとめ〕

1. スクリーニング療法は学校検尿陽性児、特に血尿群と膿尿 with/without 血尿群に有効であった。
2. 女児は男児の約2倍の有効性が認められた。
3. 血尿群の中に、潜在的な尿路感染症が含まれていると考えられた。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔まとめ〕

- 1.スクリーニング療法は学校検尿陽性児,特に血尿群と膿尿 with/without 血尿群に有効であった。
- 2.女兒は男児の約2倍の有効性が認められた。
- 3.血尿群の中に,潜在的な尿路感染症が含まれていると考えられた。